環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１４８号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

印旛沼シンポジウム　開催報告

公益財団法人印旛沼環境基金主催のシンポジウム「印旛沼を楽しもう～印旛沼のこれから～」が次のように開催されました。

日時　令和４年 10 月９日（日）
　　13：00～15：30
場所　ウィシュトンホテル・ユーカリ（佐倉市）
主催　公益財団法人 印旛沼環境基金
後援　印旛沼水質保全協議会・印旛沼流域水循環健全化会議
協力　特定非営利活動法人環境パートナーシップちば

＜プログラム＞
1．活動事例発表（印旛沼探検隊、まるごといんばぬまプロジェクト・手賀沼アグリビジネスパーク推進協議会・みずとみどり研究会）
2．ポスターセッション（印旛沼流域などの９団体）・情報交換
3．ワークショップ「これからの印旛沼への私の関り・アイデア出し」

この催しについては、印旛沼環境基金（以下、環境基金）から当会が企画運営について協力要請があり、開催の約１年前から両者で何回も打ち合わせ会議を開いて準備を進めてきました。

印旛沼をもっと良くしたい、流域（の市民団体活動）をもっと元気にしたい、という想いは、環境基金も当会も同じですので、公益財団法人という立場と市民団体という違った立場から、それぞれの得意なことを出し合って、シンポジウムを作り上げていきました。

打合せ会議では、
・新型コロナウィルス感染のリスクはあるが、人と人とが直接話し合う、ということを大事にしたい。
・前向きに考えて楽しく活動している流域内外の市民団体の話を聴いて、印旛沼も元気になろう。

というコンセプトで合意し、佐倉市内の大きな会場を借りて定員 100 名というシンポジウムを計画しました。

初めての試みで、参加者が集まるかどうか、とても心配でしたが、行政関係者、市民団体、一般市民、学生、とさまざまな立場の方たちが 62 名参加してくださり、盛況のうちに開催することができました。

４団体の楽しい活動報告を聴き、短時間ではありましたが、ポスターセッションでの情報交換・交流を行った後、後半は全部で８グループに分かれて、事例発表の感想や印旛沼についての想いなどを出し合いました。

もちろん、この場で結論が出るところまではいかなかったのですが、アンケート回答によると、参加者のみなさんそれぞれが、改めて印旛沼に愛着を感じ、（具体的ではなくても）印旛沼をもっと良くしようという想いを強くしてくださったようです。

アンケートの中に、「今回のこのムーブメントを、いかに拡げていくか、次が大事である」というご意見がありました。本当にその通りだと思いました。シンポジウムの成果を無駄にしないために、引き続きご一緒に考え、行動していきましょう！

（文責：小倉・桑波田）

エコメッセ 2022in ちば開催報告

エコメッセちば実行委員　谷合 哲行

エコメッセ2022inちばが 2022年10月22日から(約１年間)オンラインで開催されている。また、10 月 23 日には幕張メッセ国際会議場 2 階でリアル開催された。今年は５つのＰの中でも People を取り上げ、「笑顔のバトンをつなげよう」をテーマに実施した。

今年は３年振りに会場開催をすることができたが、コロナ対策として事前予約制（各回 400 人を上限として、約２時間ずつ３回に分けて参加者の総入れ替えを行った)とした。このため、延べ参加者数は 1200 人を超える規模となったが、参加された方と出展団体にリアルな交流の場を提供することができた。

市民団体のほか、企業、市や県などの行政、高校や大学などの学生など、様々な団体が出展している。オンライン出展には 34 団体の動画、会場出展には 50 団体が出展した。このうち People を中心的な活動テーマに選んだ団体は、オンライン出展で６団体、会場出展では９団体であった。飢餓や貧困、健康と福祉、教育や平等といったテーマで活動されている団体は、数こそ少ないながらも、コロナ禍や昨今の社会情勢の中、その重要性が高まっていることがうかがわれた。

さらに会場での同時開催企画として「プラスチックの海」の映画上映や、学生団体おりがみによる２つの体験型企画(「川すごろく」「かけ橋ラリー」)、更に環境パートナーシップちばが主催するユース活動発表会が行われ、様々な世代・立場の方が参加できるイベントとなった。

オンライン出展団体の紹介及び団体インタビューは、「エコメッセ 2023in ちば」開催前日まで配信いたします。来年も「エコメッセちば」は継続して開催し続けたいと考えています。今後とも「エコメッセちば」をよろしくお願い申し上げます。

エコメッセ 2022 in ちば ユース企画 開催報告

学生団体おりがみ　土谷　悠太

学生団体おりがみは、エコメッセ実行委員会のユース企画として、親子向け体験「川すごろく」と「かけ橋ラリー」を実施しました。

また、10/22 日からのオンライン配信では、「団体インタビュー」を担当しました。

■川すごろく～川の秘密を入手せよ～

国際会議室 201 号室では学生が実際に川の視察を通して学んだことや体験したことを元に作成したすごろくを開催しました。利根川と養老川の２つのコースに分かれており、現地の写真や川に関するクイズで参加者が楽しく学ぶことができる体験の場となりました。川だけでなくその周辺にある橋やダム、滝、渓谷なども再現することで現地の様子を伝えました。また、海洋プラスチックゴミを使用した魚のアートを参加者の皆様と一緒に作成することで川と海の繋がりを伝えることができました。写真やクイズから地域の川を参加者の皆様が知るだけでなく、学生が現地で感じたこともこのすごろくを通じて伝えることができ、企画メンバーの学びにもなりました。

■かけ橋ラリー～みんなが笑顔な世界へ～

国際会議室 204 号室にて会場の７つのスポットを巡り、クイズに答えながら「多様性」や「平等」について考えるスタンプラリーを実施しました。今回のエコメッセのテーマである「people」の中でも重要なことを学生が噛み砕いてわかりやすく参加者の皆様に伝えました。ゴールでは参加者の感想を書くことができるウィッシュツリーを作成し、様々な意見を思い思いに書いていただきました。

■団体インタビュー

イオン株式会社社会貢献担当の方に学生団体おりがみ（土屋・大澤）がインタビューし、イオン株式会社の持続可能な社会を目指す環境に配慮した取り組みについてお聞きしました。植樹の事業や環境教育、環境に配慮した商品、プラスチック容器の取り組みなどについてでした。詳細は、

https://www.ecomesse.com/　をご覧ください。

ユース活動発表会 2022in エコメッセちば

ユースチーム　松本さやか

2022 年初夏。今年も私たちユースチームは、地域作り団体や環境団体とユース世代をつなぐべく、活動を始めました。ユース年代が環境活動等のボランティア体験を通して、自ら地域の課題を見つけエンパワーし、持続可能な地域社会に向けて活躍して欲しい、というのが私たちのビジョンです。

昨年の反省から、早めに各団体に受け入れのお願いをし、募集チラシを作成して協力いただける高校、大学に配布したところ、なんと 61 名の応募がありました。8 月には熱中症アラートや台風の接近により実施が出来ない日もありましたが、5 つの団体と 22 名の学生をつなぐことが出来ました。

9 月から 10 月にかけて受け入れ団体と参加者の交流会を行って「ふりかえり」をしたあと、10 月 23 日に「ユース活動発表会 2022in エコメッセちば」を開催しました。基調講演には一般社団法人 Change Our Next Decade 代表理事で生物多様性をテーマに国際的に活躍されている矢動丸琴子（やどうまる ことこ）さんをお迎えし、ユースへのメッセージを寄せていただきました。

交流会や活動発表会に参加したのは大学生だけでした。大学生はボランティアをその先の進路や夢の実現のためのワンステップとしてとらえ、また、現在の学校生活だけでは得られない人とのつながりや新しい体験を求めているということを感じました。

矢動丸さんはメッセージの中で、活動を始めたきっかけは「たまたま、なりゆき」で良く、「ほんの少しの勇気」を出して、階段を一歩一歩上るように活動を続けることが大切だとお話されましたが、私たちユースチームが大人としてできることは、そんなきっかけを作るお手伝いなのだと思います。このボランティア体験を通じて、ユースのみなさんが、未来を変える行動を起こすきっかけになってくれたらうれしく思います。

ユースチームミーティングとユース活動発表会 2022 までの流れ

ユースチームと事務局がミーティングで共有しながら 10 月 23 日ユース活動発表会実施に至るまでのチームの流れを下表にまとめました。

	ミーティング	ユースチーム役割	環パちば事務局役割
第１回	５月 24 日	ユース活動発表会に向けての情報の共有と流れの検討	ガイダンスシート作成・6 月ニュースレターで受入れ団体募集
第２回	６月 18 日	発表会までの流れの確認、受入れ団体への声かけ担当検討申込みフォーム＆チラシ作成	受入れ団体からガイダンスシートを集め編集、チラシを県内高校・大学に郵送して掲示依頼
第３回	７月 21 日	受入れ団体・ユース向けアンケート作成、受入れ活動現地訪問報告(プラットメンバー・チーム・事務局分担)	ユースボランティア開始、熱中症アラート発生時中止判断、付保、終了者アンケート受けとりボランティア証明書の発行
第４期	９月 15 日	団体とユースの交流会・活動発表会の内容検討	オンライン交流会の実施 活動発表会用インタビュー実施
第５回	９月 24 日	発表会企画づくり	発表会参加者募集
第６回	10 月 1 日	発表会流れ確定準備、参加者受付・10/23 当日運営	発表会会場準備 当日記録として YouTube 作成
第７回	11 月 7 日	反省会・参加者アンケート	だより・ニュースレターの作成

（文責：横山 清美）

第７回 いちはら環境フェスタ

日時　10月５日（水）から10月12日（水）まで
平日、９：00～16：30　土・日祝祭日、９：00～19：00
最終日は、14：00まで
会場　アリオ市原１階サンシャインコート（室内）

令和４年度いちはら環境フェスタは新型コロナウイルス感染症対策のため、「パネル展示方式」で４年ぶりの開催である。

いちはら環境フェスタは、市民一人ひとりが環境保全及び３Ｒ【Reduce（リデュース）…ごみを出さない、Reuse（リユース）…繰り返し使う、Recycle（リサイクル）…再び資源として利用する】の推進等、環境に対する理解と関心を深め、環境にやさしい行動を率先して実行するきっかけを提供することを目的とした、市民、事業者、行政の協働による総合的な環境啓発事業である。

アリオ市原は、平成 25 年 11 月に２階建 70 余りの店舗の複合商業施設として開店した。隣接してホームセンター、電気店、書籍文房具店、市施設として更科公園、図書館、保健センターがあり、市民の集いの場となっているので、いちはら環境フェスタの開催場所としてはこじんまりとしていて、来場者に見やすい場所であった。

パネル展示場（サンシャインコート）は、１階中央入口広場に直径９ｍの円形にパネルボードを立て、内側には小中学生が描いた生ゴミ減量の３Ｒの絵手紙やポスターが 22 点、一般市民が描いた７点の表彰作品が展示され、外側には環境にやさしい活動事例のポスター20 点が展示されていた。

環境保全推進絵手紙・ポスターでは、ゴミの減量とリサイクル、食品ロス、３Ｒで地球をきれいに、ゴミの分別等が多く。市長賞は、「地球のためにリサイクル」で中学３年生が、教育長賞は、「とりもどそう地球年齢」で小学６年生が受賞した。３Ｒについては、「学校で学んでいる。教えている。」ことがうかがえた。

また、パネルの展示では、一般団体は各団体が持続可能な（自らができる）活動として、よみがえれ里山、つなげよう明日に、みんなで自然を見つめよう、稀少種の保護を、スミに置けないすぐれもの竹炭、等をアピールしていた。

ＮＰＯ環パちば では、[親子で SDGs を体験しよう、パートナーシップで目標を達成しよう]、が掲げられていた。

企業は、目の前にある環境障害の課題を事業化することにより環境の保全に貢献でき、且つ会社の運営に役立つこととして、パネル展示方式で、捨てない・燃やさない・埋め立てない、天ぷら油で燃料を作り使う、クリーンエネルギー、リベンジの野菜作り、仲間と繋がり住みやすい市原に、と各企業の取り組みを紹介していた。

学校は、高校生のクラブ活動として、イシクラゲの除去実験が掲示されていた。イシクラゲとは陸生藍藻の一種で、多数の細胞糸が寒天質基質に包まれた群体を形成し、芝生や土壌、コンクリート上に生育しているため、滑りやすく、見た目と触感と気色が悪いことから除去実験を始めていた。

行政は、自然環境保全に関わる事業の展開についての啓発で　SDGs、気候変動に立ち向かおう、生態系の多様性について、雑紙は資源です（回収袋の配布）、緑のカーテン、の実施等、市原市が行っている保全活動を推進していた。

（文責：芦川 義勝）

ふなばしエコカレッジ第１期講座「環境保全活動について」を担当しました。

ふなばしエコカレッジは、受講生が市内の豊かな自然を体験することなどを通して、生物多様性に関する取り組みの後継者やリーダーを育成し、将来に向けた継続的な活動を促すことを目的にしています。

講座は、船橋市の環境への取り組み、生物多様性・廃棄物・低地の自然・台地の自然・外来生物・地球温暖化などの講義と河川・海・谷津などでのフィールドワークも体験する 17 のプログラムです。当会は「環境保全活動について」のプログラムを９月 28 日(水)と 10 月 12 日(水)に担当しました。

担当するプログラムについては、目的・進め方などを、環境政策課の担当者と当会でオンラインの打ち合わせを重ね、双方向で共有しました。

募集は定員 30 名でしたが、申し込みが多く、実際の受講生は45名とのことでした。受講生は、既に環境団体に所属し活動している人、環境への関心が強まり、受講後さらに学びたい人など多様でした。

講座の狙いは、講座修了後、各自がどのような環境保全活動を実施していくかを考えることでした。

そこで１日目は、講座を受ける 前・今・これから の私の行動について、グループで報告してもらいました。これからの行動については、①海辺　②川　③市街地　④里山　⑤環境学習+その他 の中から活動フィールドを選んでもらい、行動計画作りを宿題としました。

２日目の 10 月 12 日は、宿題の行動計画について「目的・誰と・どこで」をグループで意見を出し合い、各グループで出た意見の内容を全体で共有しました。

グループでの話し合いを通して、個人から他の人と一緒に活動する、と変化していること等、卒業後の行動が実現される！と期待出来そうです。

（文責：桑波田 和子）

印旛沼シンポジウム「印旛沼を楽しもう ―印旛沼のこれから―」に参加しました。

このシンポジウムは 10 月 9 日（日）、佐倉市ユーカリが丘のウィシュトンホテル・ユーカリを会場に開かれました。（主催：公益財団法人印旛沼環境基金、協力：環パちば）

コーディネーターは環パちば･桑波田和子氏で、パネリストは４名、印旛沼探検隊･大場博子氏、まるごといんばぬまプロジェクト･浜田靖彦氏、手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会･八山美里氏、みずとみどり研究会･佐山公一氏です。

印旛沼の豊かな自然を子育ちやふれあいの舞台に活動中の「印旛沼探検隊」、印旛沼の面白さを広めようと様々な企画を実践している「まるごといんばぬまプロジェクト」、手賀沼で連携型の街づくり事業を推進している「手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会」、そして東京は多摩地区の水と緑のウォッチを長年続けている「みずとみどり研究会」。活動内容は違いますが、人間の生活と自然環境の保全（健康的かつ豊かさ）は一体である、という点は共通です。

そもそも沼は湖と違って水深が浅く（私にとっては驚きの発見）、地域に降った雨が水源なので、印旛沼の水質は悪く負のイメージが定着しています。流域住民だけでなく「水」を使うすべての人たちが、「きれいな水がいつでも使える」ことすら意識外である現状を認識する必要性を感じます。SDGs でも様々なことが複雑に影響しあい、お互いに無責任体質を改めるべき、と警告しています。

グループワークでは、手賀沼のような親水広場や沼を紹介する施設（水の館）がないことを指摘する声が多く出されました。印旛沼が、まず周辺に住む子どもたち、大人たちにとってにとって身近な存在になるよう、ますます活発な取り組みの重要性を会場一致で感じたシンポジウムになりました。

（文責：中村 明子）

ココカラ未来へ！　地球学校 in ちば
―明日をつくる　地球をつくる　子どもがつくる―

2022 年 11 月 13 日（日）に TKP ガーデンシティ千葉（一社）において、ガールスカウト千葉県連盟主催で開催された標記イベントに、環パちばとして出展参加してきました。

チラシによれば、この地球学校とは「体験・発見を通して SDGs がわかる体験型イベント」なのだそうで、「マイクロプラスチックを知ろう」を出展しました。

メインの体験は「マイクロプラスチック（5mm 以下のプラスチック片のこと。以下、MP）探し」で、千葉市の検見川の浜で採ってきた砂の中から 10 個の MP をピンセットで拾い出す作業です。ただそれだけなのですが、やり始めると「はまって」しまうようで、10 個集め終わってもそのまま探し続けるお子さんが続出でした。

この出展のシナリオは、①10 個のマイクロプラスチックを拾い出す。⇒②とても大変。③ペットボトルのふた 1 個(2.44g)がポイ捨てされて 1mm の MP になってしまったら、2,489 個も拾わなければならない。⇒④ものすごく大変　⇒⑤ MP にならないうちに拾おう！　⑥捨てないようにしよう！　です。

また、プラスチックは便利ではあるけれど、地球温暖化の原因の一つにもなっていることなど、SDGs のいろいろな切り口から、プラスチックにあふれた私たちの生活を見直すことが必要、という提案の展示もしました。

全部で 114 名の方に MP 探しを体験していただけました。来場者の多くはガールスカウトの団員さんと関係者の方だったので、ＭＰの問題に対する意識も高く、説明もきちんと聞いていただけました。

おもしろそうなステージプログラムやブースがたくさんあったのですが、環パブースの来場者対応で手いっぱいで、他の見学に行けなかったのが心残りでした。　（文責：小倉 久子）

ぼうさいふぇすた 2022 でソーラークッキング実演

10 月 15 日（日）に、我孫子市湖北台中央公園で開催された「ぼうさいふぇすた 2022」でソーラークッキングの実演を行いました。

「ぼうさいふぇすた 2022」は、湖北台東部地区６自治会合同で開催していたサマーフェスタの代替イベントとして実施する今年初めてのお祭りで、「ソーラークッキング」は、防災部門の目玉とのことでした。しかし当日の天気予報は曇/雨という絶望的なもので、会場に着いても空はどんよりと雲に覆われ、たまに一瞬太陽の光が雲間から差すものの、クッキングまでは至りません。

広々とした公園内ではキッチンカーや自治会のテントが立ち並び、よさこいの演舞もありました。もう晴れは無理だと諦めた昼頃からなんと、だんだん奇跡のように晴れてきました。匂いにつられたのか、多くの方が足を止めてくれました。太陽で焼くとウインナーは、ふっくらジューシーな焼き上がりになります。骨付き肉は、ホロリと骨がはずれます。試食はできないものの、見ていただきながら「太陽光は、身近なものを使って利用することができる」「もしもの時には、手作りすることもできるよ」とも付け加えます。小学生のお子さんを連れた親子連れも多く、「夏休みの自由研究に自分で作ってみるのもいいかもね」と興味を持ってくれました。

イベント実行委員さんからは「ソーラークッカーは、私たち住民の多くからすると目から鱗の出会いではないかと感じています。身近にある自然エネルギー：太陽を、手軽に調理に利用でき、しかも自作も可能という気づきは、今回のテーマの一つでもある防災を考える上でも、非常に大切なことですね。」と感想をいただきました。

（文責：廣田 由紀江）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　66　―
おききしました！　この人・この団体

手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会

「農業振興」から「まちづくり」へ　～農から見えたミズベの可能性～

事務局・鈴木亮平

本協議会は、柏市の農業振興政策「手賀沼アグリビジネスパーク事業」を推進するべく、平成 28 年に発足しました。柏市農政課が管轄し、地域の農業者や事業者、そして地域の拠点となる「道の駅しょうなん」ら民間５社が構成員となり、農を軸とした地域活性化、手賀沼地域のまちづくりについて、議論を始めました。

農家の高齢化・後継者不足は大きな課題であり、遊休農地の増加、それに伴う景観の喪失も懸念されています。また、農が営まれてきたことにより継承されてきた自然環境や歴史、文化をどう守っていくのかも、考えなければいけないテーマです。設立当初から取り組んできたのが「農業体験プログラム」です。年間 10 種類以上の農産物の収穫体験を実施する農家をサポートしたり、遊休農地を活用した新規農産物の栽培にチャレンジしたり、市民が農に直接ふれる機会をつくることで、手賀沼のファンを育て、地産地消を推進していけないかと考えました。

そうした活動の中で気付かされたことがあります。１つは、手賀沼には農業や環境はもちろん、子育て・福祉・歴史といった多様な視点があり、多様な取り組みが活発に行われているということ。そしてもう１つが、行政界を超え、沼・水辺・田畑・斜面林を一体的に捉えた環境保全が求められているということ。農を軸にしながら、多様な主体と連携し、まちづくりを進めていく。住んでいる人だけでなく、手賀沼を訪れる人も含めて、市民みんなで手賀沼という財産を守っていくことを目指しています。

現在本協議会で取り組んでいることは、大きく２つあります。１つ目は手賀沼の魅力発信。令和３年 12 月にリニューアルした「道の駅しょうなん」を拠点に、動画やパンフレットでの紹介、PR イベントの企画を通して、地域の情報や魅力を発信しています。道の駅のインフォメーションセンター（手賀沼まちづくりセンター）も本協議会で運営し、周辺の見所や楽しみ方を提案しています。来春には、手賀沼で通年使えるガイドブックを発行する予定で、制作を進めているところです。

２つ目は、地域のアクションのサポート。地元農家による収穫体験事業はもちろん、新規農産物の開発支援や、道の駅を活用したイベントの企画サポートも行っています。道の駅に次ぐ第二の拠点と位置付けて柏市が整備を進めてきた「手賀沼フィッシングセンター」では、そこを活用して活動する団体がいくつも現れました。そうした市民団体の皆さんと「ヌマベクラブ」という集まりを作り、毎月手賀沼に関する勉強会を開いたり、合同イベントを開催したりと、ミズベの楽しみ方を一緒に探究しています。「手賀沼でこんなことやってみたい」「手賀沼ともっと関わりたい」という市民の皆さんの積極的なアクションをサポートしながら、ミズベのファン作りに努めています。

そんな中、市民団体の皆さんと本年度からスタートしたのが「手賀沼スクールヤード」です。収穫体験やカヌー・SUP といった水上アクティビティ、竹林整備に釣り体験、生きもの観察に歴史歩き等、これまでに本協議会が関わってきた自然体験プログラムを集結させ、小中学校向けの教育プログラムを開発しました。収穫体験事業を平日にも展開したい農家、自分たちの活動を地域の子どもたちに伝えていきたい市民団体、コロナ禍で遠方に行けず身近な場での自然体験を求める小中学校、こうした想いをうまく繋げ、様々な主体と連携して進めているプロジェクトです。各団体のそれぞれの視点を大切にし、お互いの活動や理念を理解しながら、共に手賀沼を守っていく。そんな連携を深めていきたいと考えています。

ありがたいことに、手賀沼スクールヤードは、本年度の「ちばコラボ大賞（千葉県知事賞）」をいただくことができました。共に考え、動いてくれる仲間を大切に、今後も新たなチャレンジをしていきたいと思います。

運営会議報告

１０月度運営会議

10 月 13 日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- エコメッセ 2022in ちば会場出展者説明会
- 地域異業種交流会「Fun　a　bridge」9/26
- 印旛沼シンポジウム打ち合わせ　9/30
- 「ココカラ未来へ！」出展者説明会　10/1
- ふなばしエコカレッジ　9/28 10/12
- SDGs 南拠点の会から南房総市への相談（提案）
- いちはら環境フェスタ開催　10/5～12
- 印旛沼シンポジウム開催　10/9
- 地球環境基金事業中間コンサル　9/22

【協議】
- だより 148 号
- エコメッセ 2022in ちば　10/23
- 「ココカラ未来へ！地球学校 in ちば」11/13
- 千葉市公民館講座次年度申し込み　・定例会
- いちはら市民大学　11/22　12/6　　他

１１月度運営会議

11 月 17 日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 印旛沼シンポジウム実施報告提出　10/28
- エコメッセ 2022in ちば会場出展開催　10/23
- ユース活動初表会開催
- 「ココカラ未来へ！地球学校 in ちば」開催 11/13
- 地球環境基金事業中間コンサルを受けて対応
- 千葉市公民館講座次年度申し込み　10/14
- セブンイレブン基金応募提出　10/31
- 印旛沼学習支援　他

【協議】
- だより 148 号　進捗状況
- エコメッセ 2022in ちば　実施報告書 印刷なし
- いちはら市民大学（環境コース）11/22　12/6
- 定例会　12/9
- SDGs/ESD 公開セミナー　12/4
- 地球環境基金応募
- SDGs 学生フォーラム in ちば　開催の検討　　他

お知らせ

環境パートナーシップちば「会員交流会」

〈日時〉12 月 9 日（金）14:00～15:30
〈場所〉蘇我コミュニティセンタセンター
　料理実習室
　　千葉市中央区今井 1 丁目 14-43
　　JR「蘇我」駅西口より徒歩 5 分
〈定員〉先着 20 名
〈参加費〉500 円
〈申し込み〉teireikai@kanpachiba.com へ
　件名を「12 月 9 日会員交流会」とし
　氏名を添えてお申込みください。

「もったいないキウイ」を味わいながらフードロスについて考えます。
お土産あります！

環境教育関東ミーティング 2022 参加者募集！

■開催テーマ
つなぐ・つながる・ひろがる環境教育　リスタート in 千葉
■開催日
2023 年 2 月 11 日（土）～12 日（日）12:30～翌 14:00
■会場
千葉県立君津亀山青少年自然の家
〒292-0526　千葉県君津市笹1661−1
■定員　80 名
■参加費
一般 8,500 円/早割 7,500 円（〆切 12 月 31 日）/学生 7,000 円
■主催　環境教育関東ミーティング実行委員会
■協賛　公益社団法人　日本環境教育フォーラム
■お問合せ
環境教育関東ミーティング実行委員会　事務局
（千葉県立君津亀山青少年自然の家　内）
■詳細
URL：https://kantomtg.jimdofree.com/

「特定非営利活動法人　環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。